

モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード 2019 受賞者決定

一般社団法人カーフリーデージャパンでは、移動に関する様々な問題を考える機会を市民へ提供し、新しい都市交通政策の展開を進展させることを目的に、「モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード」を設け、毎年、まちづくり貢献賞、イベント・プロジェクト賞、市民向けアピール賞、カーフリーデーベストショット賞を各都市へ授与しています。

この度、「モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード 2019」におきまして、以下の通り決定致しましたので、ここに発表いたします。

モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード2019の概要

目的

- 各団体が行うモビリティウィーク&カーフリーデーについての取組を讃えます
- 各団体の取組の評価を行うことで、今後の取組への更なる意欲昂進に期待します
- 日本におけるモビリティウィーク&カーフリーデーの質的向上をねらいます
- 他団体や一般市民の関心を集める機会とします

審査委員

- 委員長 太田勝敏（東京大学名誉教授）
委員 上岡直見（環境自治体会議 環境政策研究所）
委員 望月真一（EMW日本担当コーディネーター）



審査結果

授賞団体

1. まちづくり貢献賞
モビリティウィーク&カーフリーデーなら実行委員会
2. イベント・プロジェクト賞
さいたまカーフリーデー実行委員会
3. 市民向けアピール賞
カーフリーデーふくい実行委員会
4. カーフリーデーベストショット賞
3作品（さいたま市、福井市、奈良市より各1作品）

※「モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード2019」審査会は、令和元年12月11日、一般社団法人カーフリーデージャパンにて行われました。

1. まちづくり貢献賞

モビリティウィーク&カーフリーデーなら実行委員会

授賞理由：

モビリティウィーク&カーフリーデーなら実行委員会※は、今年2年目の参加である。

奈良市では、持続可能な社会への転換を目指す総合的な政策展開や、市の将来的な目標である、世界遺産エリアへのマイカー流入規制の実現にむけた啓発活動としてモビリティウィークが導入され、「奈良は車で来ない方が楽しい」、「車に乗らない方が暮らしやすい」を市民に体感してもらうために、カーフリーデーを実施している。

今年は、昨年の活動内容を基調として、次の点で、前進がみられた。

第一に、事前の市民周知として、今年も、市公共施設やJR奈良駅でのポスター・チラシの掲示、実行委員会や市のホームページ等での積極的な発信を行ったほか、新聞・テレビ等の効果もあり、様々な層へカーフリーデーのPRや持続可能な交通まちづくりの啓発がなされた。

第二に、カーフリーデーでは、今年のモビリティウィークのテーマ「安全な歩行者と自転車」を意識し、シェアバイクや自転車の乗り方啓発、自転車フォトラリーやウォーキングイベントなど、交通、環境、観光のブースや企画が一体的に展開された。また、「SDGs」や「COOLCHOICE」の関連や連携もみられ、広く地球環境問題について啓発した。特に、オープンワークショップ「あなたの住みたい“奈良”を描こう！～安全な歩行と自転車」では、「安全に歩いて・自転車で楽しめる奈良」をテーマに、奈良公園周辺での公共交通の導入や大宮通りでの自転車専用レーンの必要性などについて市民の多様な意見が得られ、将来のまちのイメージを共有した。また、今年も、市長が参加することで、市民へのメッセージ性が高いものとなった。

その他、くるまのない都市・道路空間をより楽しんでもらえるよう、カーフリーエリアに間伐材を活用したベンチの設置やスケッチ企画が新たに行われたり、インバウンド対策として、今年も、当日用のパンフレットを4カ国語対応とするなど、外国人観光客へのPRも行われた。

以上の通り、市の目指す持続可能なまちづくりに向け、一層の啓発活動が行われ、交通部署との連携や交通政策との連動が今後期待されるものとし、昨年に引き続き、「まちづくり貢献賞」に値するとした。

※ 実行委員会は、地域の官民の諸団体で構成され、事務局は奈良市環境政策課が務める。

★他応募団体：1 団体（カーフリーデーふくい実行委員会）

講評：

カーフリーデーふくい実行委員会は、別途記載の通り、地域・市民へのカーフリーデーの認知度の向上に貢献したとして、「市民アピール賞」に選定した。

2. イベント・プロジェクト賞



さいたまカーフリーデー実行委員会

授賞理由：

さいたま市では、自動車に過度に依存しない交通体系の実現に向けた取り組みの一環として、「さいたま市総合都市交通体系マスタープラン基本計画」に基づき、今年で13回目となるカーフリーデーを実施した。

今年は、1日実施へ縮小したが、「歩行や自転車にやさしい街“さあ一緒に歩きましょう”」のテーマの下、例年同様の約2万人が来場した。

通行止めとなった大宮駅西口周辺道路では、オープンカフェが設置され、人々がゆっくり憩い、クルマのない道路・都市空間を楽しむ一方、数々のブースでは、行政、地元企業、商店会、NPO、大学等が連携し、まちづくり、環境、交通の様々なとりくみが紹介され、持続可能な交通まちづくりについて考える機会が創出された。

特に、近年は子どもたちの学びの場の提供に力を入れ、近隣小学校7校へチラシ配布を行い、小学生の職業体験を実施するほか、「ノーマライゼーション・アート・コミュニティー（アートを通じて大宮地域で活動する子どもや大人の日頃の活動の成果を発表・展示）」とのコラボにより、子どもまつりや、近隣小学校の吹奏楽など各種ステージ・パフォーマンスが行われた。たくさんの子供たち・親子連れが参加した。

モビリティウィーク全体としては、カーフリーデーのほか、例年通り、マイカー通勤を控えてもらう「ノーマイカーデー」や「バスの日」が実施された。

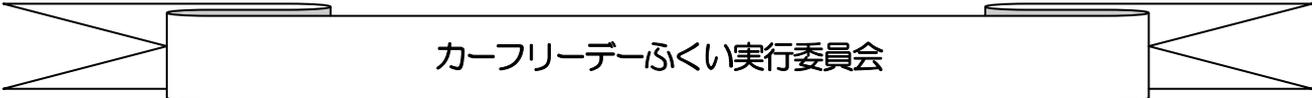
長年のこうした取組みに対する市民の反応については、毎年実施されるカーフリーデーアンケートにおいて、カーフリーデーの認知度が例年約7割と全国の中でも高いことが市民への定着を意味し、昨年に引き続き、「イベント・プロジェクト賞」にふさわしいと評価した。

★他応募団体：1団体（モビリティウィーク&カーフリーデーなら実行委員会）

講評：

モビリティウィーク&カーフリーデーなら実行委員会については、別途記載の通り、「まちづくり貢献賞」に該当するため、対象外とした。

3. 市民アピール賞



カーフリーデーふくい実行委員会

授賞理由：

カーフリーデーふくい実行委員会（市民団体）は、今年で参加 12 年目を迎える。

カーフリーデーふくい実行委員会は、自家用車の世帯保有台数が日本一の福井において、効果的に市民へ交通行動変容を訴えかけるにはどうしたらよいか、「クルマをにおいてホジロバ交通（歩行者・自転車・路面電車・バス）でまちに出よう！」をテーマに、例年、モビリティウィーク&カーフリーデーを独自に展開してきた。

特にこの数年は、カーフリーデー（1 日）、モビリティウィーク（1 週間）、モビリティマンス（1 か月）と長期にわたって、啓発活動を実践して市民へ精力的に PR を行っている。

また、近年は、休日の来街者層の変化に伴い、小中学生よりも、幼児とその親、あるいは祖父母を対象とした企画内容の充実を図ってきた。

今年は、これまでも幼児に人気のあったキッズバイク、バスの乗り方教室、パノラマビジョン紙芝居などをメインとして構成。特に、キッズバイクでは、大学研究室合同で、幼児が信号や交通標識などを学べる内容とした。一方で、この待ち時間を利用して、全国共同開催の「あおぞら絵本図書館」、交通ぬり絵、バスのペーパークラフトづくり、バスのチョロQ遊びなど楽しみ学んでもらう会場づくりが功を奏し、子どもたちが様々なブースに参加し、同時に、昨年よりも、多くの親子連れの参加が得られた。

企画は幼児向けではあるが、両親や祖父母にも「ホジロバ（歩自路バ）交通」の大切さを学んでもらう機会を提供した。

メインテーマである「ホジロバ交通」については、今年は参加団体による共同企画、(ホ)福井市オリエンテーリング協会の「フォト・オリエンテーリング」、(ジ)福井市サイクリング協会の「水辺をサイクリング」、(ロ)ふくい路面電車とまちづくりの会の「電車バスでちよい旅」ですべてのメニューがそろい、「ホジロバ交通でちよい旅」が実現できた。普段なかなか公共交通を利用しない市内・圏内の市民が体験を通して、乗り方や公共交通の魅力を知るだけでなく、身体を使って移動することの大切さやまちの再発見などもあり、有益であった。

以上の通り、市民が楽しみながら交通行動変容を促す機会を創出したとして高く評価された。また、長年の活動が、地域や市民へ浸透してきていることも称え、「市民アピール賞」に値するとした。

★他応募団体：1 団体（モビリティウィーク&カーフリーデーなら実行委員会）

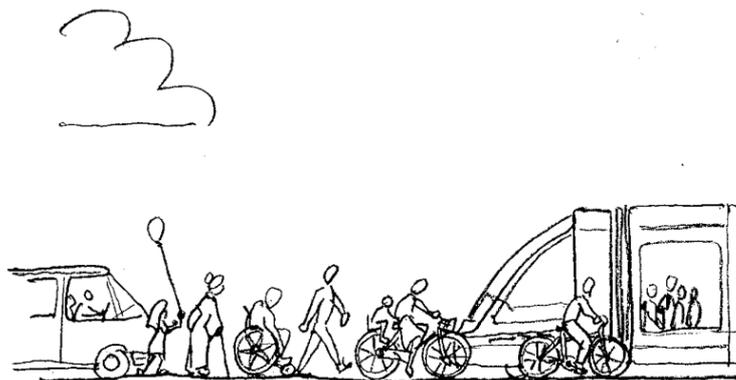
講評：

モビリティウィーク&カーフリーデーなら実行委員会については、別途記載の通り、「まちづくり貢献賞」に該当するため、対象外とした。

4. カーフリーデーベストショット賞

この賞は、各団体が今後の取組を展開するにあたり、広報活動において役立てもらうことと、カーフリーデーに参加する一般市民に楽しんでいただくことの両方を意図して設けました。

今年も、各参加団体より沢山の応募がありました。応募写真は計14枚。それぞれ特徴のあるカーフリーデーらしい風景が集まりました。選考の結果、以下の3枚に決定いたしました。



Sketch by Mochizuki Shinichi

授賞者

①さいたま市

「車道を歩く子どもたち」 / さいたまカーフリーデー実行委員会

②福井市

「キッズバイクで交通ルール」 / カーフリーデーふくい実行委員会・清水 省吾さん

③奈良市

「オープンワークショップ「あなたの住みたい“奈良”を描こう！」」 / 奈良市

さいたまカーフリーデー 2019

「車道を歩く子どもたち」：さいたまカーフリーデー実行委員会

通行止めにした道路を、保育園児たちが先生に手を引かれながら歩いている様子です。



カーフリーデーふくい2019

「キッズバイクで交通ルール」：カーフリーデーふくい実行委員会・清水 省吾さん

キッズバイクで自転車の乗り方を覚えながら、いっしょに交通ルールも自然と学んでいます！



モビリティウィーク&カーフリーデーなら2019

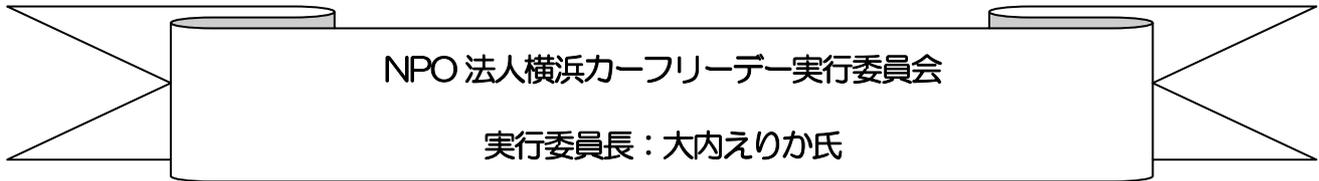
「オープンワークショップ「あなたの住みたい“奈良”を描こう！」」：奈良市

「安全に歩いて・自転車で楽しめる奈良」を目指して、未来の奈良のまちの姿を一緒に考えましょう！



特別賞 日本のカーフリーデー貢献賞

NPO法人横浜カーフリーデー実行員会は、今年16年目の参加をもって活動を終了、2019年12月に解散となりました。審査会では、長年の功績・功労に敬意を表し、この度、NPO法人横浜カーフリーデー実行委員会、ならびに、実行委員長の大内えりか氏へ、「日本のカーフリーデー貢献賞」を授与することといたしました。



授賞理由：

NPO 法人横浜カーフリーデー実行委員会は、日本国内ではじめてカーフリーデーが行われた2004年当初から市民団体主催として参加し、16年という長い間、精力的に、啓発活動を行ってきた。

毎年、横浜の関内地区において、日本大通りを交通止めとし、隣接する横浜公園とあわせて、様々な市民団体、企業、自治体等の出展や参画により、地球環境問題や交通だけにとどまらず、持続可能な社会のあり方について、幅広く啓発を行ってきた。

当初より、幼いころから交通に関する知識・理解を深めることが重要と考え、例年、こどもたちへの普及啓発に力を入れていた。教育委員会を通じ、近隣の6区の小学校へ四万枚ものチラシを毎年継続して配布しことの意義は大きい。毎年、たくさんの親子連れが訪れ、学びの場となっていた風景は、横浜市民にとっても、恒例イベントのひとつとして目に焼きついていると思われる。

同時に、横浜カーフリーデーは、日本のカーフリーデーのひとつのイメージ、モデルとして牽引してきた。また、アジアでのカーフリーデー普及においても、団体が果たした役割は大きい。※

後年は、人手不足や高齢化により、会としての運営・存続が厳しい中、今年度も精力的に活動を実施した。春には、行政（国・県・市）と市民が一緒に考える「持続可能な交通まちづくり～SDGsの実現にむけて」を開催したり、カーフリーデーでも、全国協働企画「あおぞらえほんとしょかん in カーフリーデー」にも積極的に参加協力した。

カーフリーデーは1日のイベントだが、実現にむけては通年の活動であり、持続可能な社会の実現にむけ、市民・行政の協働にたゆまぬ努力を重ねてきた。これを支えてきたのは、実行委員長をはじめとして委員全体の強い意志・思いが原動力であったことは言うまでもない。

活動が終了となったことは非常に残念であるが、横浜でのカーフリーデーが、また、NPO 法人横浜カーフリーデー実行委員会の思いが引き継がれていくことを切に願い、この度、「日本のカーフリーデー貢献賞」として功績・功労を称えたい。

※ 2008年には、「カーフリーデー・アジア会議 in 横浜」（セブンイレブン記念財団助成）を―社）カーフリーデージャパンと共催
2011年には、「環境や人にやさしい交通まちづくりを目指す市民団体のためのカーフリーデーワークショップ」（地球環境基金助成）に参加。アジアの環境NGOと交流・情報共有。

